

## ◆ 今週のコメント

- ・ ジアルジア症(全数把握・5類)の報告が1例あり、これは本年はじめての報告です。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は4.10(275例)で、前週の3.06(205例)から増加しています。行政区別では、特に南区での増加が著しく、南区の定点当たり報告数は16.8(前週 2.60)となっています。

## ◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.48(379例)で、前週から増加し、本年度で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 5例(肺結核 4例, 肺外結核 1例, 潜在性結核感染者 なし), (喀痰塗抹陽性 2例)  
【1月以降の累積報告数 102例(肺結核 51例, 肺外結核 23例, 潜在性結核感染者 28例), (喀痰塗抹陽性 29例)】
- ・ 五類:ジアルジア症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	4.10	275
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.48	379
	② 水痘	0.88	35
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.73	29
	④ 突発性発しん	0.43	17
	⑤ 伝染性紅斑	0.28	11
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

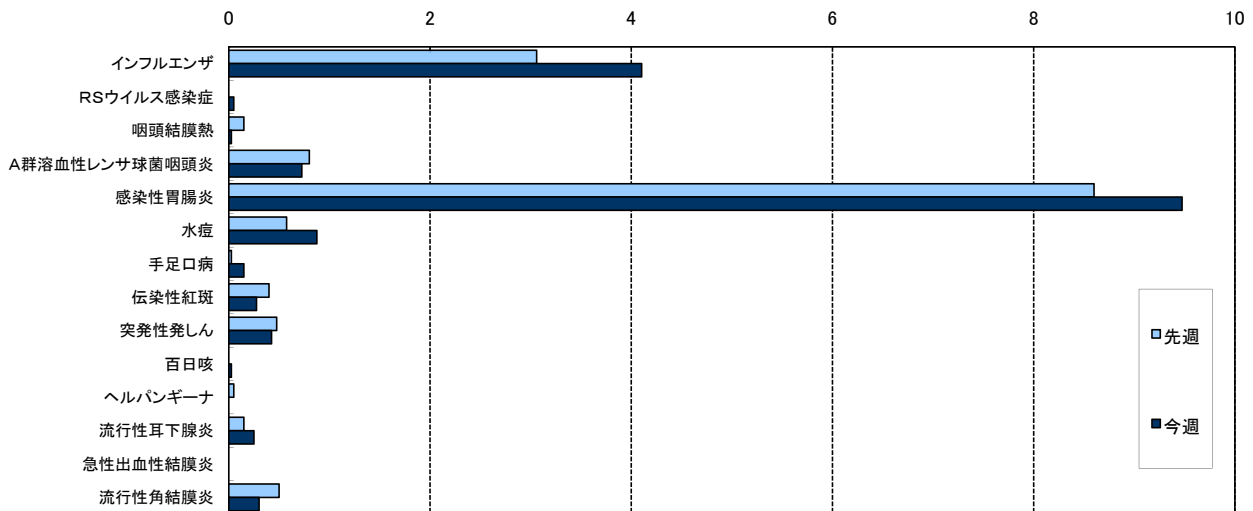
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注) 京都市のデータは、平成23年4月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

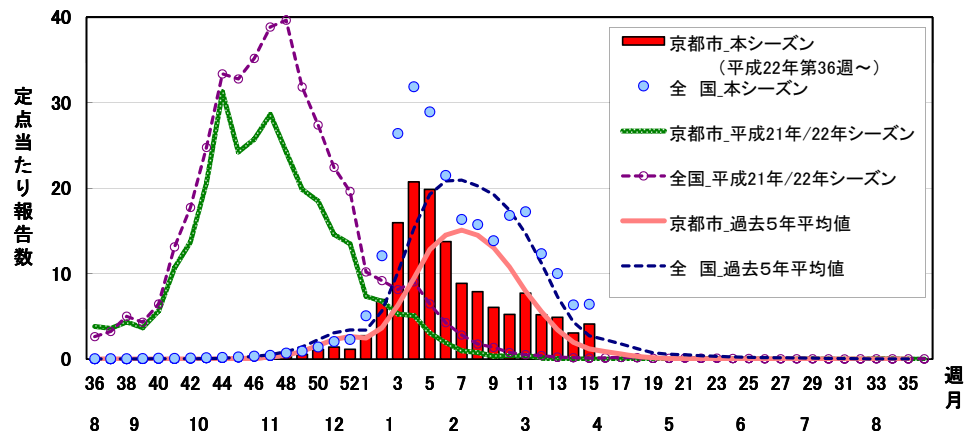
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第15週)と先週(第14週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

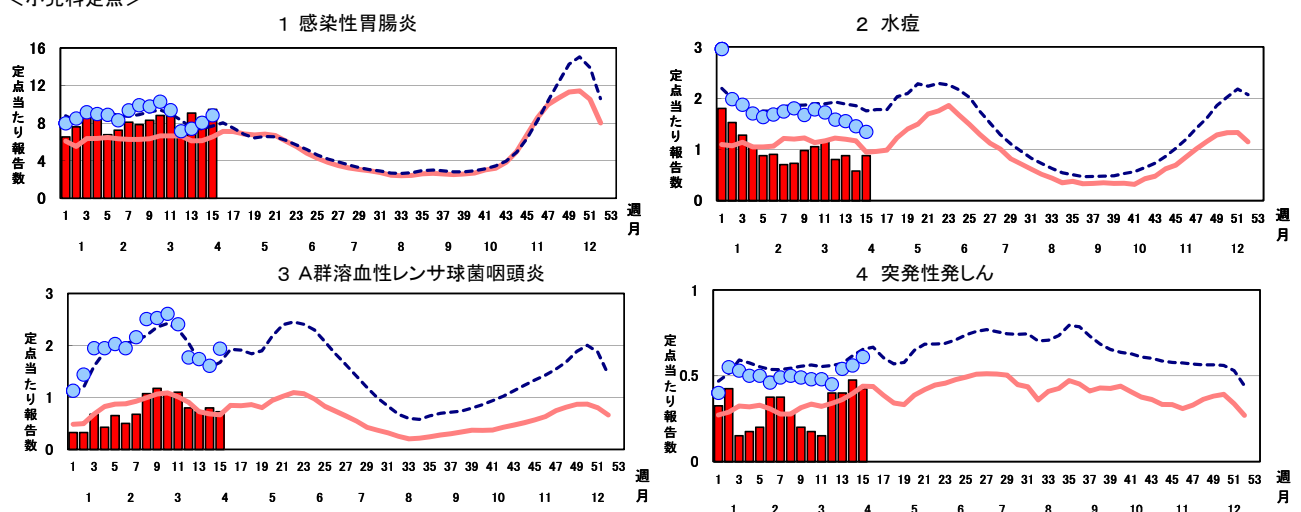
週	報告数(例)
第11週	517
第12週	348
第13週	327
第14週	205
第15週	275
累積報告数 (第36週以降)	9,287



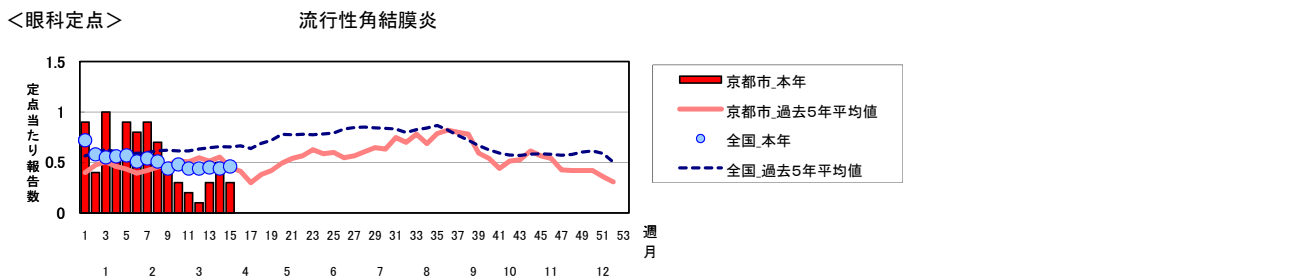
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



# 第15週(4月11日～4月17日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.48(379例)で、前週から増加し、本年度で最も多くなっています。

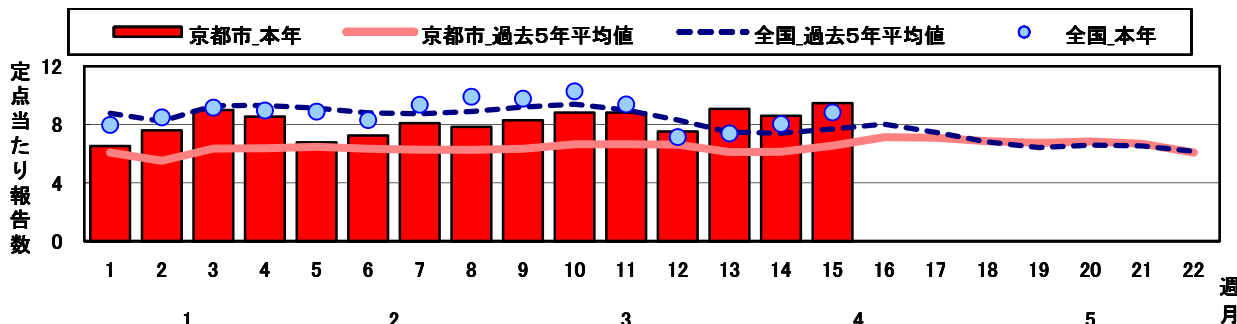
全国、近畿6府県及び京都市の定点当たり報告数の推移をみると、第13週以降、本市の定点当たり報告数は、兵庫県について多くなっています。

行政区別の定点当たり報告数は、北区、上京区、左京区、東山区、山科区、南区、西京区の7行政区で前週から増加しています。

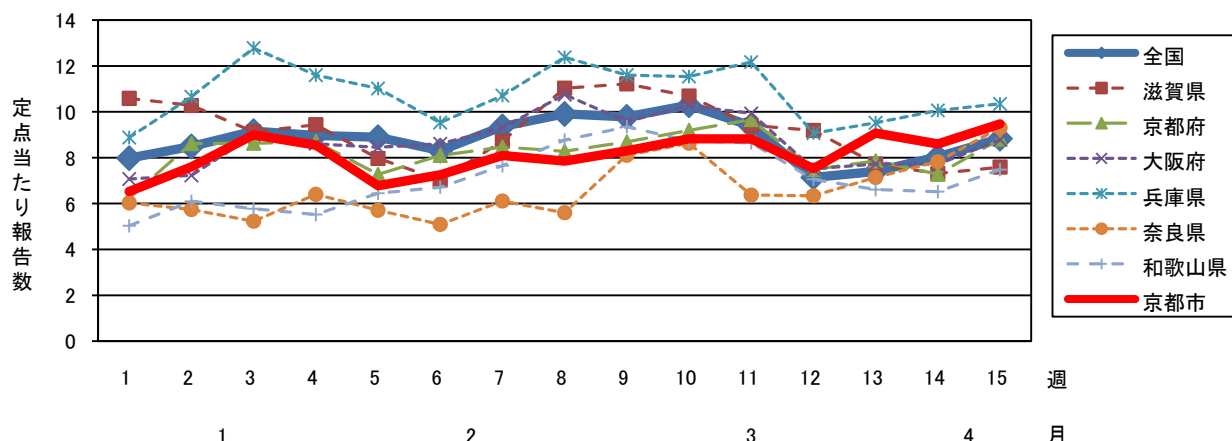
病原体定点から採取された感染性胃腸炎検体において、京都市衛生環境研究所では、ロタウイルスの検出が増加しており、この傾向は、全国でも同様となっています。

集団発生もみられていますので、御注意ください。

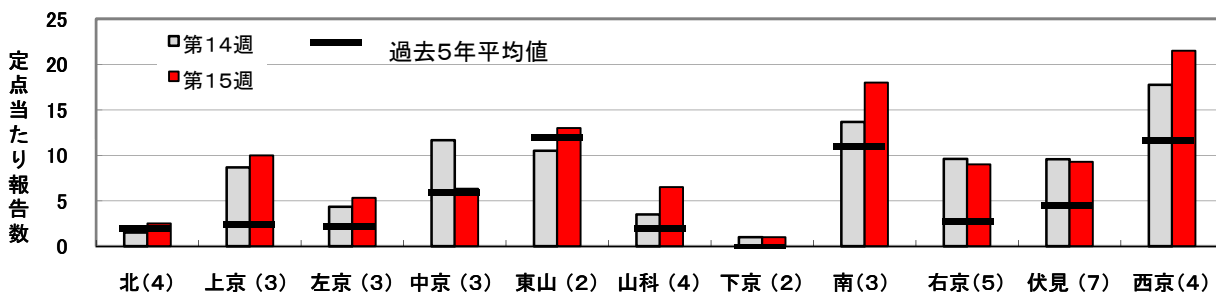
定点当たり報告数の推移(平成23年)



全国、近畿6府県及び京都市の定点当たり報告数の推移(平成23年)



行政区別 定点当たり報告数の推移



( )内は各区の定点医療機関数

## 感染性胃腸炎検体からのウイルス検出状況

京都市衛生環境研究所 (nは病原体定点からの感染性胃腸炎検体数, 4月は14日受付分まで)

	1月(n=18)	2月(n=22)	3月(n=18)	4月(n=7)
ノロウイルス	6	5	3	1
ロタウイルス	1	3	4	3

全国(国立感染症研究所感染症情報センターホームページから, 4月22日現在)

	1月	2月	3月	4月
ノロウイルス	307	198	179	14
ロタウイルス	38	91	111	30